

り判するに石塊は非常の高さより落下せるものとも思はれさりき降石は一度落下し地の反動にて更に逸出したるもの多かりしか最初落下して印せる窪の中に新に草の芽を生して數日を経たりと認められたるものもありき、明治浦附近には數箇所に幅一、二寸程の地割れを生しあるを見たるか此等の破裂の地響の爲に起れる地の結果なるへし(未完)

南 鳥 島 視 察

(明治三十五年九月廿日
東京地學協會列會講演)

理 學 士 吉 田 弟 彦

目 録

- 一、位置並に形狀
- 二、沿革
- 三、地質
- 四、氣候
- 五、生計
- 六、動植物
- 七、肥料

位置并に形狀

南鳥島は東京を距ること約千百有餘哩小笠原父島を距る六百六拾哩にあり其經緯度の位置は測者の報告に多少の差異あり之を比較せんに

北緯二十四度十四分

東經百五十四度

東京府告示

全 二十四度十七分三十五秒

全 百五十四度四分三十秒

笠置艦測定

全 二十四度十七分二秒

全 百五十四度一分

高千穂艦測定

島の形状は殆んど二等邊三角形をなし周圍約二哩半あり土地低く最高點と雖も僅に三十三呎に過ぎず全島の五分の四は拾呎乃至二十呎の樹木鬱蒼として其周圍七メートル乃至三、四十メートルの間一帶に白珊瑚礫を以て圍焼し白皚々として礫の小なるは蠶豆大にして大なるは徑一寸乃至二、三寸に達し遠くより之を望めは樹林と相對稱し恰も白砂青松の一堤坊に過ぎざるが如し樹林の下に行けば綠陰靜にして清風徐に來る所聞慣れぬ海島の聲愛すべく身の熱帶囹圄近くに在る心地せず眞に仙郷に遊ぶものゝ如し

沿革

本島は初め米國宣教師某氏の發見せし所にしてマーカス島或はウキークス島と稱し當時絶えて人跡なく明治十六年十一月高知縣人信崎常太郎と云ふ者横濱コンシロー會社英船エタ一號に乗り本島に上陸したることあり其後明治二十九年東京禽獸會社南洋部長水谷新六帆船天祐丸に乗じて南鳥島に漂着し後備海軍大尉小林春三氏相前後して本島に來り小笠原諸島及び八丈島の人民を移住せしめ信天翁の羽毛を剥ぎて南洋に輸出し其利益少なからず其後横濱貿易商人上瀧七五郎と共同して今日に至れり去る明治三十一年七月東京府告示を以

て本島を小笠原島の所屬と定めたるも世人の之れに注目するもの少なかりしが如し是より先明治二十二年米國帆船々長ロースヒル本島に來り羽毛及鳥糞に着眼し本國に歸るや否や大統領に之れが占領を願ひしも許されず本年更に米國政府に請ひ二名の化學者植物學者を乗組ましめ七月三十日來りしも既に我帝國の版圖に屬することを聞き笠置艦駐劄隊長秋元海軍中尉に請ひ二名の學者を上陸せしめ一週間滞在し種々の研究をなして快く歸國せしと云ふ

地質

本島の地質は極めて單純にして着縁性^{フリンクシグ}珊瑚礁なり海濱には珊瑚礁の散亂し所々に階段地^{ステップ}を爲す而して内部の表土は鳥糞と腐敗したる植物珊瑚礁と相混し肥沃の土地を構成し椰子^{ド、バナナ、タバコ}樹及雜草繁茂するも樹木の高さ僅に三十呎に過ぎず

氣候

溫度は笠置駐劄隊一ヶ月の觀測によれば平均華氏八十七八度内外にして時として百度以上に昇ることありと島民の言に依れば炎天にては百三十度以上に昇ることあるも室内にては九十二三度を通例とし冬期は六十度を降ることなし降雨は稀にして時々驟雨あるのみ殊に七月に多く冬期は殆んど降雨なし風向は冬は北風多けれども其他は偏東風多し概して清風颯々たるものあるにより氣候は暑氣と雖も凌き好き方なりと云ふ

生計

目下本島内に生活するもの二十九人内男子二十五人女子四人あり捕鳥剝製を業とす其家屋の構造は一の小屋掛にして椰子葉及び亜鉛にて葺き一列の長屋あるのみ飲料水は雨水を貯へ或は燒酎製造用の蒸溜器を以て海水を蒸溜して使用し食料は帆船を以て内地より運搬し若し便船なければ食料欠乏を來たし椰子の實鳥類及び魚類等を食し饑餓を防ぐの苦しみあり而して氣風は概して柔順にして中には中學科程を踏めるものにて多少英語を解するものすらありし

動植物

本島の財源とも稱すべきは鳥類にして全島殆んど鳥を以て蔽はれ其性柔順にして人を恐れず之を捕獲すること小兒と雖とも容易にして竹竿の先きに徑尺余の鐵輪に網を附し濱邊或は樹木の間に飛廻るを叩き伏するなり昨今は朝間に三四十羽を獲ると云ふ捕獲したる鳥類は事務所に持來り剝製に供す剝製の間合ねば兩翼のみを剝き取り之を剝製して輸送す故に鳥の屍骸到る處に散亂し臭氣堪へ難し

鳥類は何れも水鳥にして之を二十余種に區別す其主なるものを擧ぐれば

信天翁 黑燕 袋鳥 オサ鳥 白燕 尾長鳥

昆虫 蜥蜴 ヤモリ 蠅 赤蛾 黄色の小蠅 蚊

魚類 鮫 鮪 サワラ カツボン 白トゲ 鰻 大口魚 鰺 青魚 赤魚 フグ
 植物 椰子樹 煙草(内地のを移植す) タバコ樹(全島に多くして其葉は小さき煙草の葉に似て幹は梅の如し) ウド樹葉は内地の獨姑ドコに似て幹は桐の如し其他二三種の雜草生ず

肥料

全樹林の面積は凡そ二十六萬餘坪にして全島の五分の四を占め表土は黒褐色或は黝色の二種あり島民の言によれば其深さ二三尺に達すと云ふ而して二者共に珊瑚粒及腐敗したる植物を混す中にも灰色のものは珊瑚粒多し今黒褐色の者に付きて試みたる分析の結果に依れば磷酸及窒素化合物の存在を認めたり

百分中

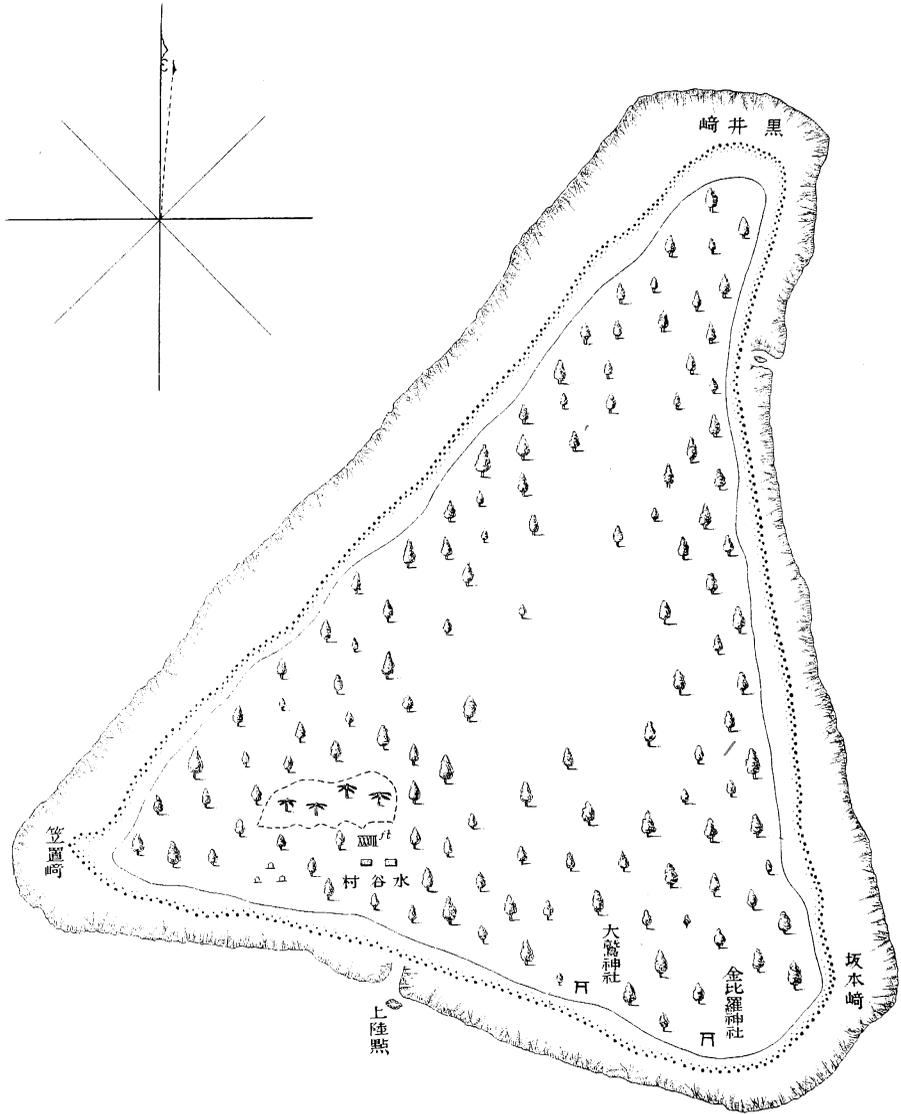
摘要

磷酸	三一、〇二七	一ミリ以上にて珊瑚大粒を除きしもの
全	一七、八八二	一ミリ以上にて珊瑚大粒を混するもの
水分	一〇、二四七	一ミリ以上のもの
磷酸	一四、一三一	半ミリ以上のもの
水分	二〇、〇三〇	全
全窒素	二、四九八	全

(完)

南島地地形圖

軍艦笠置航海士海軍中尉秋元秀太郎實測



記號

▲	△	○	□	■	●	○	○	○	○
最高地	神社	墓地	珊瑚礁	珊瑚礁	家屋	椰子	樹木	樹木	樹木

比例尺 一分万 一尺例比

0 100 1 2 3 4 5 CABLES